

私の一文字

会員セミナー委員長
林 信秀

みずほ銀行
常任顧問



「異」 Something different

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、林信秀会員セミナー委員長にご登場いただきました。

岡西 林さんの一文字、「異」への思いをお聞かせください。

林 若いころの二度にわたる海外勤務経験が何かと今に影響していると思っているのですが、特に“Something different” “Something new” というフレーズを思い起こします。赴任当初は大変でした。人と何が違うのか。昨日と違う何を提供できるのかとひたすら考えました。社名や肩書きではなく、個人として付き合う価値があるかを問われ続けたと思っています。

岡西 世界を走ってこられた中でのご実感ですね。

林 国内勤務も多かったので世界を走った、とまでは言えませんが、海外の人脈や情報交換は常に大事にしています。

岡西 今回の「異」は、世界に向けて広がるイメージを大事にして書き起こしました。さらに、最後の二画はどっしりと構えるように書いています。

林 人はそれぞれ異なるということ、この文字からあらためて考えさせられます。海外では小さいころから「あなたの意見は何？」と問われる経験を重ねていることもあって、自身の意見をはっきり主張することが多いと思います。

岡西 ご自身ではそうした「違い」に関して、何を意識されてきましたか。

林 結果を出すことに力を注ぎました。失敗しても次の提

案をお客さまに持っていく。本部に掛け合って必要な予算を確保する。こうした積み重ねが部下やお客さまとの信頼関係をもたらし、結果につながると思っています。

岡西 失敗しても簡単には諦めない姿勢も大事ですね。

林 母校、岐阜高校の校歌・校訓にあるのですが、「百折不撓^{ひやくせつぷ}」、仮に100回失敗しても諦めず挑戦しよう、という言葉^{とら}を座右の銘にしています。もちろん失敗したら落ち込みますが、一晩寝てまた明日頑張ろうと自分に言い聞かせます。

岡西 ぜひ書にしてみたくなりました。

林 頼まれて書くのと、展示会向けでは違いがありますか。

岡西 所作は一緒なのですが、向かうときの精神が随分違います。依頼に対してはその相手を意識しますが、展示会の場合は私自身の問題意識に思いを向けます。今の世界情勢なども影響してきますね。

林 変化が激しく先行きが見えない時代こそ、自分自身ができることを考えるしかないと思っています。果敢に挑戦したり、自ら考えて行動したりする人が増えていくことが求められます。

岡西 混沌とした状態だからこそ、人と異なる価値観を自ら発信していくことが大事なのだとあらためて思います。最後に、会員セミナーの今後の活動について伺えますか。

林 オンライン配信を始めてから、多いときには全国で500人の方々に視聴いただくこともあります。会員の方々に少しでもヒントになるようなテーマで講師をお呼びしていきたいと思っています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。